

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 佐々木英夫

山名	南山城加茂町当尾石仏めぐり		山行名	例会		
ルート	バス停加茂駅東口 9時 14 分 □ 岩船寺 ・ ・ 三体地蔵 ・ ・ 弥勒仏線彫磨崖仏 ・ ・ わらい仏 ・ ・ 不動立像 ・ ・ 阿弥陀地蔵磨崖仏 ・ ・ 愛宕灯籠 ・ ・ ・ 藪の中三仏磨崖像 ・ ・ ・ 浄瑠璃寺 ・ 丁石 ・ ・ 首切地蔵 ・ ・ 五輪塔 ・ ・ 大門石像群 ・ ・ 大門仏谷大磨崖仏 ・ ・ 加茂山の家バス停 15時 41 分 □ 16時 06 分 加茂駅で解散					
山行日	2013/6/7		天候	晴れのち曇り		
参加者	山口・西川・片山・西上・園上・徳田康・金本・宮野・堀尾・濱北・岡田・(一般・水谷・河原・野坂)・佐々木・計 15 名					
省略	コースタイム					
	地名		時：分	地名		
	加茂駅東口	集		昼食	着	
		発	9:14		発	
	岩船寺	着	9:40	浄瑠璃寺	着	12:50
		発	10:20		発	
	三体地蔵	着	10:30	大門石仏群	着	13:25
		発			発	
わらい仏	着	11:10	大門仏谷大磨崖仏	着	13:45	
	発			発		
藪の中三仏磨崖像	着	11:40	加茂山の家	着		
	発			発	14:41	

JR 加茂駅からバスで岩船寺に着く。住職が寺のことを話してくれた。寺を辞し、山門前から左の山道を登っていくと**三体地蔵**があり、彫りはっきりしており童顔でやさしく他の地蔵と違い錫杖を持ち、宝珠をささげている。降るとミロクの辻で、小川越の岩盤に**弥勒仏線刻磨崖像**があった。さらに川沿いに道を下ると**わらい仏**が丘の西斜面にある。当尾では最もよく知られた阿弥陀三尊で、観音菩薩、勢至菩薩が彫られ、上部の大石が廂の役目をしていて風雨の影響も少なく、彫りも深く、実に穏やかな笑みを拝する人々に投げかけている。

願主は岩船寺住僧、大工末行の銘があるという。その北横に小さな眠り地蔵が土中に埋没していて頭部だけが地上に出ている。本体はどんな姿であろうか。信仰深い村人はあえて掘り起こさないと記している。次はカラスの壺という四辻があり**阿弥陀地蔵磨崖仏**を拝した。正面に**阿弥陀如来座像**があり同じ岩の左側面に**地蔵菩薩立像**がある。通りに出て、**藪の中三仏磨崖像**を見ることにした。隣り合った岩石の正面には地蔵菩薩と観世音菩薩の二体が、右の岩石には阿弥陀如来座像があり大工橋安繩、小工平貞末とある。銘文の多くは願主〇〇〇は多くあるが制作者の銘は少なく判別できないのが残念だ。**浄瑠璃寺**に行く途中で**昼食**にした。門までの参道の両側にはアセビの木が茂っている。この風景が堀辰雄の『**浄瑠璃寺の春**』の場所とすぐに知れた。門をくぐると、仏の浄土を出現させたという平安の貴族が夢見た境内の右に国宝九体阿弥陀堂が、宝池を挟んで左に国宝三重塔が配置されている。寺を拝観した。九品体の尊厳さに圧倒される。

浄瑠璃寺ではこの日は行者祭りが行われていて、多くの人が集っていた。大門まで戻り、三叉路に大門群の石仏を見ながら、集落の道を具ダル。途中、杉の木立から、大門仏谷の斜面の巨大な花崗岩に彫られた**如来形大磨崖仏**が見られた。田んぼの畔道を踏み、近くまで寄って拝した。硬い花崗岩に高肉彫りで、見事な丸みを帯びた肩から腰の浮き彫り、安定した台座におわす如来形座像の姿を制作した者は一体何人だったのだろうか。案内には当尾では最古最大の石像で年代も平安後期、または奈良時代とあるし、仏も阿弥陀如來說と弥勒如來說とがあって、謎の多い石仏らしい。当尾では、数多くの石仏が大切に保存されている。石仏を拝して思ったこと、人には守り本尊があり、密教の結縁灌頂と大いにかかわりがあるといわれている。十二支別守り本尊を記して見ると、子は千手観音、牛、寅は虚空蔵菩薩、卯が文殊菩薩、辰、巳が普賢菩薩、午は勢至菩薩、未、申は大日如来、酉は不動明

王で、戌、亥が阿弥陀如来と言われている。それぞれの縁日に参拝し、真言(呪文)を唱えると、功德が得られるという。

加茂山の家バス停には、予定より1時間ほど早く到着した。一般参加の皆さん、ありがとうございました。

ヒヤリハット なし



岩船寺三重の塔



三体地藏



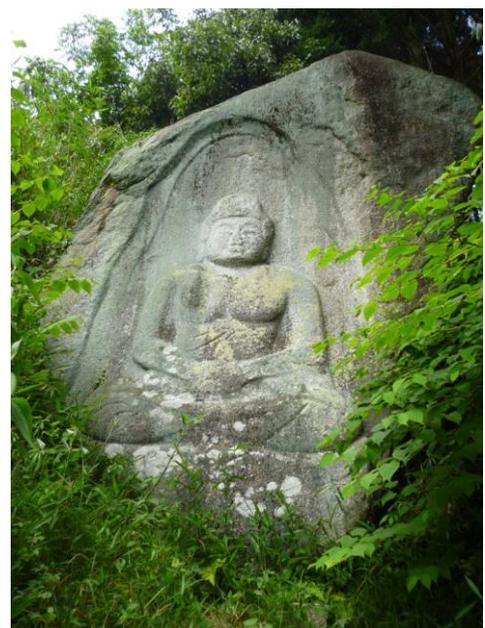
弥勒仏線彫磨崖像



わらい仏・阿弥陀三尊磨崖仏(勢至菩薩・観音菩薩)



浄瑠璃寺・九体堂



門仏谷大磨崖仏(定印は阿弥陀)